

昭和
41年 11

県民の大

毎月1日発行 第343号

発行所 和歌山市小松原通1丁目1番地

和歌山県知事室広報課

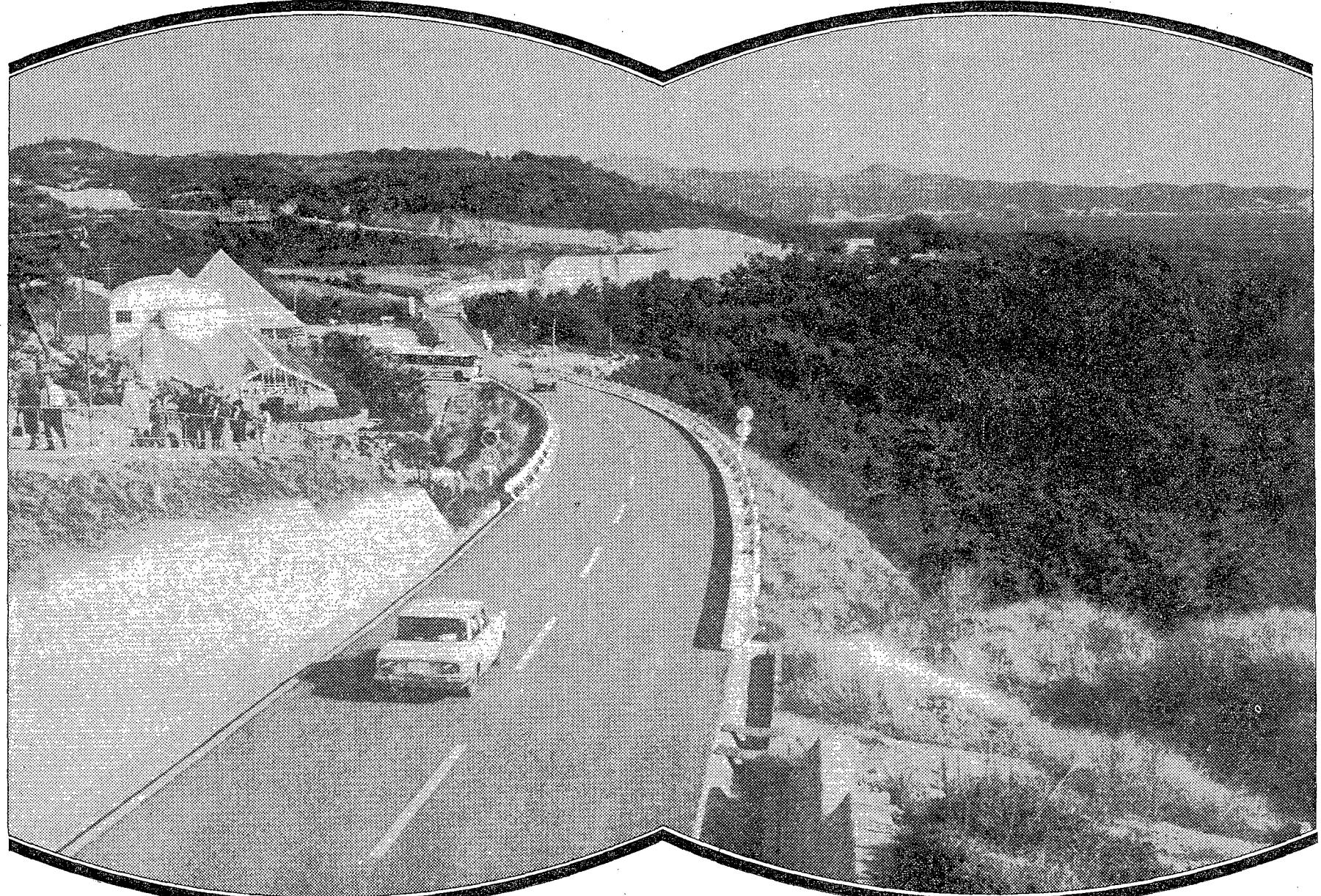
印刷所 和歌山新聞社

●写真は南白浜有料道
路左の建物は植物園。

時代の移り変わりとともに、人の生活も考え方とも、また、観光の様相も変わります。いや変ななければならぬ観光なのです。生まれ変わる紀州の観光のすがたをなめ直してみましょう。

发展をつづける観光紀州

和歌山県がすぐれた観光地であることは、いまさう言ふまでもあります。海、山、温泉・金剛山すべてが観光地とよくに最近、鉄道や道路が整い、旅行が便利になったことや、観光が大衆化したことから、県内観光地はシーサンを問わずにぎわっています。



「紀勢ルート」の整備すすむ

きよ年の末に、紀伊半島一周の「紀勢ルート」が国際観光ルートにきました。

これは和歌山県が、国際的な観光地であることを認められたものです。しかし、国際的になったとはいえ、道路や鉄道がまだ十分整っていない現状です。急いで観光客の「足」を整備する必要があります。

「足」の第一は国鉄紀勢本線です。いま東和歌山一白浜間で複線化工事が急ピッチで進められていますが、これは昭和45年完成を目指されています。完成すると大幅なスピードアップと列車の増発で観光客の足の便をはかることができます。

「足」の第二は、国道42号線です。昭和43年の春、全線舗装の文字どおりのシーサイドドライブウェイとなって、多くの観光客を自動車で迎えることでしょう。

このほか、高野山から紀州の屋根を縫つて、護摩壇山から竜神温泉に至るスカイラインも完成し、山に、海に、新しい観光周遊ルートがひらかれてきています。

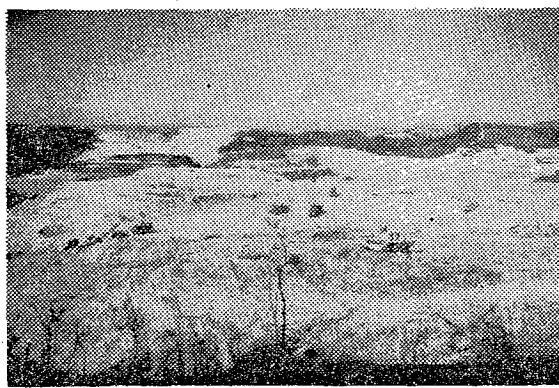
44年には南紀空港 白浜では南紀空港の建設が始まっています。完成は昭和44年の春です。

東京から1時間、大阪からは30分、今まで近畿の奥座敷

といわれた南紀は、全国の空港と結ばれて「茶の間」として親しまれることでしょう。

勝浦に県内第二の休暇村

大衆旅行がここ数年急にふえてきました。本県にはすでに和歌山市加太の国民休暇村があり、職場グループや家族づれでにぎわっていますが、いま勝浦でも建設中



●建設中の南紀空港

です。

また、安く利用できる宿泊施設としての国民宿舎やユースホステルも各地で次々と建てられています。

海岸公園と海中公園

海岸公園の計画は国道42号線ぞいの景色のよい海岸に、自然を利用した公園を県がつくるものです。ことし中に完成させるよう計画を進めています。また、美しい紀州の海を陸上からだけではなく、海中まで紹介し、未知の世界を人々に楽しんでもらおうというのが、いま研究している海中公園の構想です。

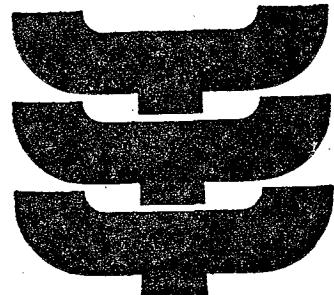
色とりどりのサンゴ礁や波にゆれ動く海藻の間に、群れ泳ぐさまざまな魚類を目あたりに、海中を散歩することも、昭和45年の万国博までに、完成したいと検討しています。

自然を生かして

美しいものは人を呼びます。自然は美しいえにより美しく育てたいものです。

新しい、独特のものは、魅力をさそいます。資源を開拓して新しい魅力をつくることも、観光にとってはつねに考えなければならないことです。

美しく、しかも時代の要求にマッチした魅力をつくることが、いまの和歌山県観光の課題であります。

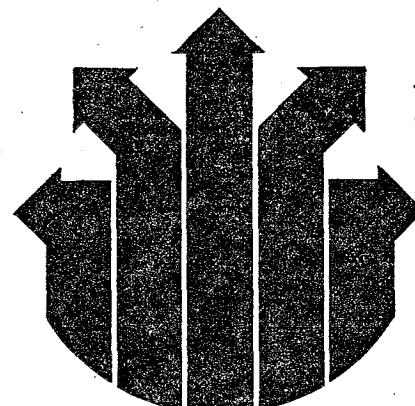


文化財愛護シンボルマーク

文化財を大切に

文化財愛護強調週間

昭和41年11月1日(火)~11月7日(月)



共販

で伸びる農協
明るい農家

●果実の出荷は共同販売で
農業協同組合／和歌山県果実農協連

昭和41年11月1日

建設(橋など)に八十%

このほど開かれた県議会で九月補正予算が議決されました。一般会計で三十億四千四百六十円、特別会計で七億三百五十九万円、計三十七億四千七百八十万円となり、結局、一般会計予算では、三百六十八億四千七百八十万円になりました。そして特別会計の百二十九億四千万円を加えると、四百九十七億八千七百万円という、本県はじめて以降の超大型予算となりました。

補正予算のうち約八十億は投資的事業にあたられ、道路橋などの建設ができるだけ完成せようとの意気込みを示しています。このため、国の認承を得た公共事業は全部取り入れ、県道独禁事業についても、県政の重きとして上げた施策をいっそ強調いたしました。

また、特新なものとして交換する大額な増額が考えられました。

建設(橋など)に八十%

このほど開かれた県議会で九月補正予算が議決されました。一般会計で三十億四千四百六十円、特別会計で七億三百五十九万円、計三十七億四千七百八十万円となり、結局、一般会計予算では、三百六十八億四千七百八十万円になりました。そして特別会計の百二十九億四千万円を加えると、四百九十七億八千七百万円という、本県はじめて以降の超大型予算となりました。

補正予算のうち約八十億は投資的事業にあたられ、道路橋などの建設ができるだけ完成せようとの意気込みを示しています。このため、国の認承を得た公共事業は全部取り入れ、県道独禁事業についても、県政の重きとして上げた施策をいっそ強調いたしました。

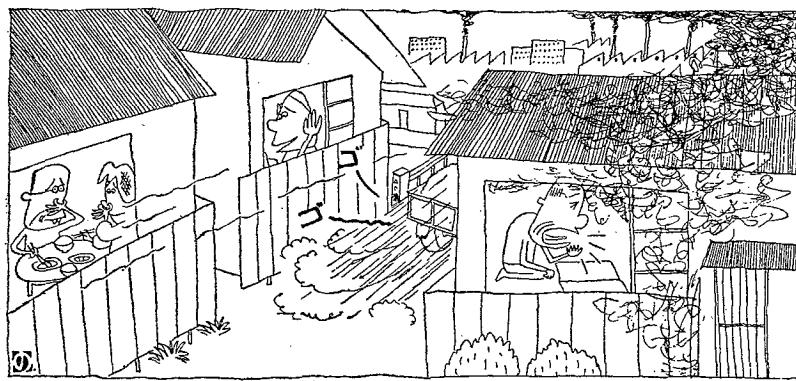
また、特新なものとして交換する大額な増額が考えられました。

公害防止条例できる きれいな生活環境を作るために

九月定例県議会では大型予算を中心に三十七件あまりの議案が審議されました。そのうち条例関係では、おもなも

のに公害防止条例のほか、近畿圏の都市開発区域での県税の特別措置についての条例、ミツバチ転飼条例などがあります。

まず公害防止条例とは……



煙、ガス、粉じん、震度、廢液、汚水、騒音、振動などによる危険が非常に多くあります。著しくなれていく生活環境……

大型補正予算きまる 460億+37億



【公害防止条例のあらまし】
○公害と呼べているのがこれまでにびとて公害を発生しないよう努めています。
○取り締りの対象となる、ほい煙場などにあたるが、この条例では公害を防ぐために、次のようにとまとめています。

○公害防止条例のあらまし】
○公害防止にはなんといつても企

業者や住民一人一人の理解能力

が必要です。企業者をして働く、企業

の裏をなげなければならない役割り

があります。

○公害防止にはなんといつても企

業者や住民一人一人の理解能力

が必要です。企業者をして働く、企業

の裏をなげなければならない役割り

